



金丸和也リハビリテーションセンター長



依田秀平 主任作業療法士

やまし医療 最前線

県立中央病院から

〈312〉

治療後すぐに日常生活に復帰したいという患者のニーズを受け、山梨県立中央病院はリハビリテーション

センターを通じて多職種が連携を取り、さまざまなけがや病気に対応したりリハビリを提供している。大幅な入院期間の短縮や自宅退院率の増加につながっている。

センターを通じて多職種がきたという。以前のリハビリの主な対象は骨折や脳血管関連の病気だったが、がんや心臓・呼吸器関連の患者も増加。それぞれに対応したりリハビリの導入が求められるようになった。

センター開設に併せ、筋トレや歩行訓練などを行って低下した呼吸機能の回復を目指す「呼吸器リハ」を導入。対象患者の平均入院期間は26日間（22年度）から14日間（23、24の両年度）

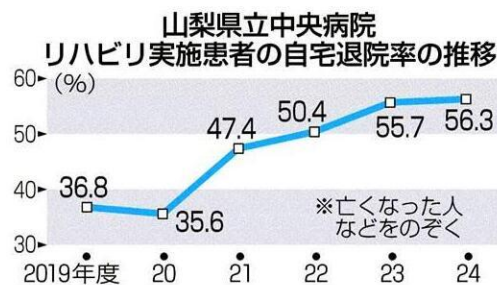
リハビリ多職種で強化

入院短縮、自宅退院も増

復期に対応した別病院に移り、リハビリを受けるのが一般的な流れだった。しかし、近年では住み慣れた自宅へすぐに戻りたいというニーズが高まっている。

ただ、高齢患者は病気の症状や手術で体力が低下しやすい。高齢化の進展で自宅退院が難しい例が増えて

院は職員の専門性を高めようと、2023年度にリハビリテーションセンターを開設した。作業療法士や理学療法士、言語聴覚士ら専門職が30人以上所属。医師や看護師らと患者ごとに必要なリハビリ内容を共有し、より良い状態で自宅に戻れるようサポートしてい



比べて19%増加した。金丸和也リハビリテーションセンター長は「（急性期病院にとって）リハビリは今や、手術や化学療法に匹敵するほど重要だ。患者が退院後にすぐに仕事や家事に復帰できるよう、今後も積極的に取り組みたい」と話した。

Ⅱ第2、4火曜日に掲載します